



文化財ニュース いわき

第 70 号

平成 25 年 10 月 12 日

財団法人いわき市教育文化事業団

福島県いわき市常磐藤原町手這50-1
(いわき市考古資料館内)

TEL 0246 (43) 0391

ひさのはまじょうりあと

久之浜条里跡の発掘調査成果

—丘陵裾部に広がる古代～中世の集落跡—

【現地説明会 平成25年10月12日（土）10：30～13：00】

久之浜条里跡は、福島県いわき市久之浜町久之浜字水上・柳町・桂田・籠内に所在します。久ノ浜駅から南西に約250m、市立久之浜第一小学校正面に広がる水田に位置し、久之浜バイパス建設に伴って調査された、縄文時代の一大集落である連郷遺跡^{れんごう}に近接しています。

今回の調査は、土地区画整理事業に伴う試掘調査の成果に基づいて、平成25年6月から行っています。調査の結果、竪穴住居跡4棟、掘立柱建物跡3棟、柱穴300個以上、水田跡などが見つかりました。竪穴住居跡や包含層から、縄文土器・弥生土器・土師器^{はじき}・須恵器^{すえき}・陶磁器・石器などが出土しています。竪穴住居跡は奈良時代頃、掘立柱建物跡は12～13世紀の中世（鎌倉時代前期）に位置づけられることが判明しました。



久之浜条里跡 調査区全景（写真中央奥から右側手前に向かって久之浜バイパスが走る）



3号住居（下）と4号住居（上）



南東方向へのびる排水溝（3号住居・南）



カマド周辺から検出された土師器（4号住居）

竪穴住居跡

4棟の竪穴住居跡はすべて丘陵裾付近の平坦面から見つかりました。

平面形はほぼ正方形を呈しています。1号住居は一辺約2.5m、2・4号住居跡は一辺約5mを測ります。

1・4号住居にはカマドが設けられていました。1号住居のカマドは小さく、焼けた痕跡も認められないことから、すでに壊されているものと考えられます。

2・3号住居では壁の周りを排水のための溝が巡っています。とくに3号住居の隅には、住居内から外にのびる溝も設けられています。

4号住居のカマドはすでに上部が壊された状態で見つかりましたが、周辺から土師器甕・杯つきがまとまって出土しました。

とじておきましょう。



1号掘立柱建物（左）と2号掘立柱建物（右）

掘立柱建物跡

掘立柱建物跡も丘陵裾部の平坦面につくられていました。

1・2号建物は、ともに2間×4間の長方形を呈し、前者は東西に、後者は南北に主軸をもっています。柱穴の柱材は丁寧に加工され、保存状態が良好なものが目立ちます。柱穴の大きさ・深さから、頑丈につくられた倉庫のような性格であったと想定されます。

3号建物は、2間×2間の正方形を呈します。東・西・北の3面に^{ひさし}庇が設けられ、住居として使用された建物と想定されます。南側にある柱穴列が一直線に並ぶことから、この建物にともなう柵や塀である可能性が考えられます。



柱穴内より検出された柱材（2号建物）



3面に庇が設けられた建物（3号建物）



まとめて出土した縄文土器



出土した青磁の碗（中国製）



出土した弥生土器（小型の壺）



土師器（古墳時代）の検出作業

調査で出土した遺物

縄文時代から中世にかけての土器が中心となります。

出土した縄文・弥生土器の多くは文様がわからないほど磨滅しており、本調査区の西方に位置する連郷遺跡から流れ込んできたものと考えられます。

また、「S字」の形をした口をもつ土師器甕の破片がまとめて出土しました。この土器は古墳時代でも古い段階である4世紀代に位置づけられます。今回は、この遺物にともなう遺構は見つかりませんでした。もしかすると、周辺に古墳時代の集落やお墓が眠っているかもしれません。

このほかの遺物としては、中国製の青磁の碗・皿、常滑産とこなめと考えられる甕などが出土しています。これらは12～13世紀の鎌倉時代前期に位置づけられるものです。

当初、掘立柱建物跡がいつの時代のものかははっきりとしませんでした。出土した陶磁器は柱穴にともなうことが明らかとなり、建物跡がこの時期に位置づけられるものだとすることが判明しました。鎌倉時代前期に比定される遺跡・遺構は市内にも類例がきわめて少なく、非常に重要なものです。久之浜地区のみならず、いわき市の中世を考えるうえで、新たな知見をもたらしてくれるものといえるでしょう。

とじておきましょう。